厚生労働科学研究補助金（障害者政策総合研究事業）

児童・思春期精神疾患の診療実態把握と連携推進のための研究

令和2～4年度 総合分担研究報告書

分担研究課題名：小児科領域における子どもの心の診療の診療実態のための調査研究

研究分担者　小倉 加恵子　　国立成育医療センターこころの診療部

研究要旨

目的と方法：小児科領域の子どもの心の診療の実態と課題を明らかにすること目的として、小児科・小児神経科の医師および小児科領域の専門学会・団体を対象として、①多機関連携モデル事案のアンケート調査、②子どもの心の診療医の養成状況のアンケート調査、③診療対象及び連携状況に関する現状と課題に関するインタビュー調査を実施した。

結果：診療対象としては発達障害、知的障害、愛着障害を主とし、発達が気になる状態から心身症や摂食障害など精神疾患まで幅広く、本人・家族を中心とした（Family Centered Service, Patient and Family Centered Care）一次・二次医療を提供していた。多機関連携を通じて発達支援や家族支援を効果的に実施していた一方で、精神科医療機関との連携には資源不足などの困難さがあった。診療医養成については専門性の資格基準の明確化が進められていたが、各学会・専門団体が独自に進めていることで一定の偏りが懸念された。

考察：課題として、小児科医の精神科疾患に関する基礎的な知識・技術を習得、精神科領域との役割分担と医療連携、診療報酬の見直しなどについてシステム整備が必要と考えられた。小児科領域と精神科領域との診療および人材育成の協力体制を深めることは、裾野の広い重層的な子どもの心の診療体制整備につながると考えられた。

研究協力者

秋山 千枝子　　あきやま子どもクリニック

竹原 健二　　国立成育医療研究センター政策科学研究部

A．研究目的

児童・思春期における精神疾患は、発達障害、心身症、気分障害、適応障害、被虐待など多岐にわたっており、子どもの心の諸問題と称されることが多い。近年、ことにコロナ禍を通じてさらに増加傾向にある被虐待、不登校、10代の自殺率など諸課題と関連して子どもの心の診療は喫緊の課題であるが、診療体制は未だ十分に整っていないとの指摘がある。

そこで、本分担研究では小児科領域の子どもの心の診療の実態と課題を明らかにす

ることを目的として３つの調査を実施した。1年目は、子どもの心の診療状況と多機関連携のモデル事案をまとめることを目的として、小児科・小児神経科を対象にしたアンケート調査を実施した。2年目は、子どもの心の診療医の養成状況を明らかにすることを目的として小児科領域における専門学会・団体による専門性の認定状況及び研修実施状況について調査した。3年目は、臨床の現場で重要だと考えられる潜在課題の抽出をおこなうことを目的として、子どもの心の診療現場の最前線にいる小児科医師を対象としたインタビュー調査を実施した。

B．研究方法

1年目の研究では、全国の診療所・病院に勤務する小児科・小児神経科の専門医12名に連携事案の調査を行い、事案を集積、分析した。2年目は、日本小児科学会、日本小児科医会、日本小児神経学会、日本小児心身医学会、日本小児精神神経学会、一般社団法人子どもの心専門医機構を対象として、子どもの心の診療の捉え方と研修実施状況に関する質問紙調査を実施した。3年目は、日本小児科学会および日本小児神経学会から推薦された3名の意思を対象として、半構造化質問票を用いたインタビュー調査を実施した。

（倫理面への配慮）

本研究の実施にあたっては関連する指針や法を遵守し、個人情報の保護及び研究対象者の人権擁護に対して十分な配慮を行った。また、データの漏洩などを防ぐため、厳重なセキュリティを設けてデータの保管を行った。3年目のインタビュー調査は国立成育医療研究センターの倫理委員会の承認を得て実施した。本研究に企業との利益相反はない。

C．研究結果

連携に関するアンケート調査では、子どもの心の診療において全ケースに連携が行われており、多機関連携により子どもの発達支援や家族支援に様々な効果があることが示された。小児科領域における多機関連携のモデルとして、2施設以上との連携は①同時一括型連携、②同時多発型連携、③継時・変容型連携の3型に分けられた。

研修に関する調査では、2005年度と2021年度との比較可能な全ての専門団体において構成員数の増加が認められ、資格基準が明確になっていた。子どもの心の診療の範疇の捉え方については、2005年度は一部の児童思春期精神疾患を対象としていたが、2021年度には心の発達から児童思春期精神疾患まで幅広く対象としていた。また、本人の診療だけでなく、家族支援、母子保健・児童福祉領域や保育・教育など他領域との連携もこころの診療の一部としている点が特徴であった。診療医育成については、各専門団体が独自に研修プログラムを作成しているため、それぞれがカバーする領域に一定の偏りが生じている可能性があった。

インタビュー調査では、小児科領域における子どもの心の診療の特徴として、一次から二次までの医療提供の役割があることや、心理社会的課題に対する本人・家族を中心としたアプローチ「小児科医療における患者と家族を中心としたケア（Patient

and Family Centered Care）」をおこない、関連する専門機関・施設と連携体制を構築しながら診療を実践していた。診療医の精神疾患に対する診療技術の向上、精神科領域との役割分担と連携が課題としてあげられた。また、小児特定疾患カウンセリング料を算定しているが2年で打ち切られるなど一定の制限があることや、コメディカルに対して診療報酬上の評価が十分ではないことなど経営上の問題についても指摘があった。

D．考察

子どもの心の診療について小児科医療機関が中心となり連携することで子どもの生命を守り、子どもの発達特性や家族の疾病に適切な介入ができるなど利点があると考えられた。一方で、診療や連携状況に応じた診療報酬の評価が十分でないことが、小児科領域における子どもの心の診療の裾野を広げるうえでのボトルネックになっている可能性が考えられた。

小児科領域では、子どもの心の診療対象は発達が気になる状態から精神疾患まで幅広く捉え、診療行為については本人の治療に加えて、家族支援や関連領域との連携を含めて捉えていた。一次医療から二次医療を提供する一方で、専門性やシステム上の制限から三次医療については精神科医療機関との連携が不可欠であるが、資源不足から困難さがあった。診療において小児科領域と精神科領域とが役割分担をすることで資源を有効活用し、重層的な診療体制を築くことが可能になると考えられた。

子どもの心の診療医の養成として、それぞれの専門学会・団体において10年以上取組が進められてきており、専門性の認定基準を明確化するなど一定の質の担保が図られていた。学会・団体や領域をまたいで研修事業を共有することは行われておらず、知識・技術の向上や連携推進のうえでも研修情報の共有や研修の共同開催などについて今後進めていくことが望ましいと考えられた。

E．結論

小児科領域における子どもの心の診療の特徴として、日常小児科診療を通じた「気づき」の場としての役割や診療対象としては発達障害、知的障害、愛着障害を主とし、発達が気になる状態から心身症や摂食障害など精神疾患まで幅広く、本人・家族を中心とした（Family Centered Service, Patient and Family Centered Care）一次・二次医療を提供していた。多機関連携を通じて発達支援や家族支援を効果的に実施していた一方で、精神科医療機関との連携には資源不足などの困難さがあった。

また、診療医の養成については、専門性の資格基準の明確化が進められていたが、各学会・専門団体が独自に研修プログラムを作成していることによる一定の偏りが生じている可能性があった。

小児科領域における子どもの心の診療を推進していくうえで、精神科領域との役割分担と連携、診療報酬の見直しなどのシステム整備が必要と考えられた。また、人材育成として、精神科疾患に関する基礎的な知識・技術を習得するための研修や、精神科領域との共同研修などを検討していくことで、子どもの心の診療全体の充実化、質の向上につながり、裾野の広い重層的な子どもの

心の診療体制を整備していくことにもなると考えられた。

F．健康危険情報

なし

G．研究発表

1. 論文発表

1） Aoki A, Niimura M, Kato T, Takehara K, Iida J, Okada T, Kurokami T, Nishimaki K, Ogura K, et al. The trajectories of healthcare utilization among children and adolescents with autism spectrum disorder or/and attention deficit hyperactivity disorder in Japan, Frontiers in Psychiatry. Front Psychiatry. 2022 Jan 20;12:812347. doi: 10.3389/fpsyt.2021.812347. eCollection 2021.

2. 学会発表

1) 小倉加恵子、小枝達也、秋山千枝子. 子どもの心の診療を行う小児科医療機関における連携状況の類型化からみえた課題. 第68回日本小児保健協会学術集会. 2021.6.18～20. Web開催.

2) 小倉加恵子、小枝達也、奥野正影他、子どものこころの診療実態に関する調査―全国施設アンケート調査―. 第69回日本小児保健協会学術集会. 2022.6.24～26. 三重県総合文化センター.

H．知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他